



研修視察（長野県原村）

議員研修 報告

特産品開発を 先進地に学ぶ

9月28日から30日の日程で、全議員が参加し、長野県八ヶ岳中央農業実践대학교、原村、川上村を視察研修しました。

八ヶ岳中央農業実践대학교は、「土地を耕し、心を耕す」をモットーに「安心・安全な商品」を生産、販売まで行う6次産業化を現実的なものとしていました。学校を卒業した方々は、学んだノーハウを全国いたるところで実践しているとのことでした。

原村と川上村では、栽培しているものは「セロリ」と「レタス」との違いはあっても、それぞれ日本一の生産量を誇っていました。両村とも高地の冷涼な気候条件を逆手にとり、産地ブランド化を成し遂げた先進地でした。

当町にあつては、多種多様な農産物が栽培されていますが、ブランド化に向けての作物や数量の確保をどうしていくかなどの課題があります。6次産業化については、個人やグループなどで様々な取り組みを行っていますが、付加価値をつけて販売するときのマーケティングなども含め、こちらも課題があると思います。

今後、本議会も行政と連携をはかりながら、ブランド化や6次産業化に取り組んでいるグループや農業団体などへ、どのような支援が出来るのか検討していく必要があると感じたところです。



研修視察（埼玉県ときがわ町）

議会運営委員会

議会運営と議会活性化を学ぶ

10月13日から14日の日程で委員及び議長の7名が参加し、埼玉県ときがわ町及び福島県会津美里町での研修を行いました。

ときがわ町議会では、「議会や議員は何をなすべきか、どうあるべきか」を議論しながら、議会や議員の倫理を含んだ基本条例を制定し、その制定の趣旨や条文ごとの解説を載せたリーフレットを町内全戸に配布したとのことでした。

会津美里町議会では、議会自ら提唱する「学習する議会・開かれた議会・行動する議会」の実現に向けて、当局への行財政改革推進に関する提言書の提出や町の課題に対する議員それぞれの自由討議の公開など、議会運営改革を推進していました。

このたびの研修では、両町議会ともに合併を経験し、議員定数や議会活性化策への調査研究を徹底的に行い、民意が求まる議会基本条例の制定や議会の活性化策を築きあげたことなどに多くを学びました。

本議会においても、議会としての政策提言や、倫理条例の制定、町長への反問権の確保など、求められる議会のあり方を推進してきました。

研修の成果を本議会の活性化に資するとともに、改めて、議会基本条例の制定や議員同士の討議など、求められる地方分権改革の受け皿足り得る議会として、町民の皆様の負託にこたえるべく、更なる調査研究とその実現に努めていきます。